

修道中学校入学試験 概要と今後の予定

I 2023年度入試結果概要

① 受験者数・合格者数

	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
募集定員	276名	276名	276名	276名	276名
志願者数	895名	872名	873名	931名	902名
受験者数	873名	839名	855名	922名	868名
合格者数	534名	532名	536名	534名	532名
補欠	75名	86名	84名	80名	109名

※「補欠」については、3段階に分けた順位をお知らせしています。

② テスト教科・時間・配点・受験者平均点・合格最低点(総点)・合格者平均点(総点)

教科	国語	算数	理科	社会	C. T.	総点
時間(分)	50	50	40	40	50	
配点	125	125	100	100	100	550
2023平均点	90.9	79.6	46.5	59.9	71.3	348.2
2022平均点	83.4	74.9	71	52.2	73.2	354.6
2021平均点	71.3	76.4	63.9	58.8	81.3	351.7
2020平均点	63.6	82.1	69	60.6	75.7	350.9
2019平均点	76.5	80.5	63.2	67.8	76.7	364.7

	合格最低点(総点)	合格者平均点(総点)
2023年度	337点	388.1点
2022年度	342点	394.4点
2021年度	340点	390.9点
2020年度	346点	393.4点
2019年度	354点	405.0点

(合格発表段階の点数)

II 2023年度入試結果分析

① 入試結果について

今年度の入試は、昨年と比べて理科の平均点が下がりました。近年の傾向ですが、受験生全体の得点に幅が出ているようです。

② 志願者数について

昨年より23名増加し895名の志願者がありました。

③ 合格者数について

合格者は534名で、ほぼ昨年どおりです。

このところ成績上位者の入学率が上がってきています。今後とも、一人でも多くの志願者に本校を選んでいただけるように努力していきたいと思っております。

④ 補欠者数について

補欠者数は名です。補欠者には成績により3段階に分けた順位をお知らせしています。今年度入試では、「補欠1位～位段階」、「補欠位～位段階」、「補欠位～位段階」の3段階にわけています。

本校では、合格者からの入学予定者数が定員に満たない場合、補欠者を成績順に繰り上げ合格の候補者とし、その中で入学の意志がある方を合格としています。

補欠からの合格者数は年度によって変動があります。2021年度は32名、2022年度は42名が最終的に繰り上げ合格となっています。

Ⅲ 講評(科目ごと)

*国語

・受験生の出来は？

全体的な出来は悪くなかった。ほとんどの受験生が記述解答に果敢に取り組み、得点を重ねた。

特に【大問一】の「漢字と語彙」の問題の出来が良好で、次に【大問三】の「小説」、【大問二】の「評論文」と続いた。

・問題の難易度・特徴は？

大問一（易しい）漢字の書き取り、語彙問題。

例年出題している「漢字の書き取り」と「慣用句などの語彙力」を問う問題であり、ほとんどの生徒が満点に近い得点であった。

大問二（やや難）

「メタ認知」という小学生にはやや難しい概念を整理する問題であった。記号や抜き出しの出来は概ね良好であったが、問四と問五の記述問題において得点のない答案は少なかつたが、完答と呼べる答案も同様に少なかつた。

問四は傍線部の内容について理由を答える問題であり、修道の受験生であれば、ぜひ演習を繰り返してほしい。難易度は標準と想定している。無記入の生徒は非常に少なく、大半の生徒がこの問題に取り組むことができた。

問五は「表面的な理解に基づく解答」と「問題文全体を読み、設問の意図を把握できている解答」で点差がつくようになっている。表面的に書けば短時間で終わる簡単な問題であったし、じっくり腰を据えてかかれは難しい問題であったと言え、受験生の実力をはかるのに適切な問題と考える。

大問三（やや易しい）

「クラス対抗黒板アート大会」についての小説で、書かれている事象自体は難しくはないが、登場人物が多いのと、物語終盤ということで、読解に必要な様々な前置条件が「リード文」や「（注）」にちりばめられているため、「本文」「設問」「リード文」「（注）」を行ったり来たりする必要があり、「情報処理能力」も要求される問題であったが、参照すべき箇所がはっきりしていたこともあり、多くの受験生がある程度得点できていた。

問三は、「ひとつの事象」に対して「複数の観点」で答えることができる問題であり「他者」が「自分」の「喜び」となることに「文章中の描写」に基づく妥当性があれば正答である。

問五は「登場人物(葉麗華)」が「笑った」理由を60字以内で答える問題で、直前の場面を読み、状況と登場人物の心情を、それぞれ手短かにまとめる力が問われる。「同じ言葉を発信者と受信者が異なる解釈をすることで起きるズレ」は入試の小説では頻出のオーソドックスな問題である。

・採点上の気づき・受験生の解答の特徴は？

大問一 漢字の書き取りについては、画数や配置の不備で失点する受験生が多く、もったいない。具体的には、「④清潔・⑧就職」や「⑨朗読」の出来が振るわなかつた。語彙問題もほとんどの受験生が満点であったが、日常生活であまり耳にすることのない「④濡れ手に粟・⑤竹を割ったような」の出来が70%前後であった。

大問二 問題文には「『彼ら』が誰であるかわかるように…」という解答の条件が設定されているためこの傍線部を含む段落の内容を正確に理解し、必要な要素を記述にまとめなければならないが、傍線部の直前を抜き出すこととまる解答が目立った。本問の場合、そのような解答は間違いとはならないが、傍線部の内容についての理由として要素が不足していると見なした。傍線部を含む段落では、メタ理解を研究するためにおこったゲームの事例であり、これを反映させた解答にしなければならない。

問五は「表面的な理解による解答」が多かつた。「問題文全体を読み、設問の意図を把握できている解答」のレベルに到達しているものは少なかつた。

大問三 多くの受験生が状況や登場人物(麗華)の心情をとらえていると思われ、満点の答案も多数見られた。ただし、表現力の不足から、答案を十分練らずに解答してしまう受験生もあり、内容的に矛盾した答案も見られた。

・受験生への要望・合否のカギは？

大問一 漢字の採点基準は、「画数」「形状」が重要視される傾向にあるので、「とめ・はね・はらい」などが不明瞭であっても、基本的には×とはならない。「画数」や「全体的な形状」という観点から、「糸」の上部を画でつなげて書いてしまったり、「；(さんずい)」をあまりにも上部に寄せすぎて「かんむりの一部」のようになってしまったりした場合は得点としない可能性が高いので気をつけよう。

大問二 問四の「傍線部の内容についての理由」は、まずは傍線部の直前を確認するのが最も基本的な手段である。しかし、入試は「獲得点差が合否を決定する条件」である以上、それだけでは解答の要素として不十分になることが多々ある。直前の部分だけではなく、文章全体を捉える広い視野が必要である。また、説明文は「受験に合格するために必要」だからという理由で「単に表面的な作業」として読解するのではなく、「筆者がなぜこの主題を伝えたいのか」ということと「それに付随する具体例は主題とどのような関係にあるのか」ということへの意識が重要である。今回の文章でいえば「メタ認知」を正しく理解して使いこなせれば、文字通り「より高次の人生が歩めるよ」ということが腑に落ちることが望ましい。

受験生のみなさんにおいては、「新聞、授業、塾」などで目にする「文章」は「わざわざ誰かが読んでほしくて書いている」ということをふまえて「よし、新しい知見を手に入れるぞ」という「ワクワク感」をもって臨んでほしいと心から願う。

大問三 問三 適切な語彙力を持った受験生と、そうでない受験生との差が、そのまま得点差に反映されたと思われる。本文にある語を正しく書き写していない受験生も一定数いたが、そこでの減点はもったいないので気をつける事が重要である。

問五は具体的には、以下の状況を整理し過不足なく解答することとなる。

【状況1】輝の提案に対する絵美の「いい」という答えは「賛成」という意味だった

【状況2】輝は絵美の「いい」という答えを「反対」という意味だと受け取った

【麗華の心情1】輝は(これまでの輝との関係性から相変わらず)ネガティブだなと思った

【麗華の心情2】輝の(物事をネガティブに捉えがちな)人柄が面白いと思った

答案を見ると、下書きをしていないため文法的に整合性がとれていないものが散見された。まずは、簡単なものでよいので、解答の大まかな流れを下書きしてから解答用紙に書き写してほしい。また、誤字脱字がないか、必ず見直しをしてほしい。更に、頭の中の想像に基づいて解答するのではなく、本文の記述に基づいて解答することが重要である。

小説は、「登場人物」が繊みな人間模様に興味をもつこと、つまり「人間関係」に興味をもつことが重要となる。社会の中で生きる上で、必須の能力なので、実生活の経験や小説作品を読むことで実力を高めてほしい。

・問題解説

大問1 語彙

小学校までに触れてきた漢字やことわざ、慣用句の力を測る出題です。

受験までに言葉についてどのように向き合ってきたかを測ることを意図しています。

大問2 説明文

「メタ認知」についての説明文を出題しました。はじめに本文における「メタ認知」の概要を理解し、続いて各分類の理解をふまえて、最終的には「メタ認知」の文章を自ら書くという出題となっています。本文で説明されている概念を段階的に把握する力を測ることを主に意図しています。

大問3 小説

「黒板アートコンクール」を題材とした小説を出題しました。

主人公の「立花輝」の視点で展開する、「黒板アートコンクール」の当日の描写について、「主人公の心情」や「主人公から見た友人たちの動向」から読み取れる「友人たちの心情」について出題しました。多くの登場人物の行動や思惑などを整理して読み解く力を測ることを主に意図しています。

*社会

・受験生の出来は？

平均 59.9 点で、特に偏りのない結果だと思います。

・問題の難易度・特徴は？

問題作成時には、昨年度よりもやや難易度が高くなったのではと考えましたが、得点率は地理 50.14%、歴史 73.70%、公民 55.05%で、だいたい例年通りでした。歴史では年代の前後関係を問う問題がいくつかあり、どれも正答率は7割前後ありました。公民では今年も時事問題が多く問われていて、日頃から新聞・ニュースなどに注意しておくことが得点差につながったと思われます。

・採点上の気づき・受験生の解答の特徴は？

いずれの説明記述問題でも、問題が何を求めているか正確に把握せずに見当違いのことを書いたり、正確に把握していても表現力が不十分であったりする答案が多く見られました。ていねいに文字を書いていないのでよく判別できない漢字も多くありました。

・受験生への要望・合否のカギは？

まずはていねいな字を書くこと、そして問題文をよく読むことを心がけてほしいと思います。普段の勉強において「考えながら」覚える、「納得しながら」覚えることが大切です。地理ではさまざまな地理的事象の因果関係について、歴史ではさまざまな歴史上の出来事の前後関係について、公民ではいま日本や世界でどんな出来事が起こっているかについての理解を深めていきましょう。

・問題解説

大問1 地理

都道府県ごとの産業や自然環境の特徴について出題しました。

基本事項とともに、地図や統計などの理解力、地理的事象の応用力や説明力を問いました。

大問2 歴史

原始時代から現代までの日本と外国の関わりについて出題しました。

基本事項の理解度とともに、出来事の前後関係や歴史的事象の説明力を問いました。

大問3 公民

今日の日本と世界をめぐる時事的問題を出題しました。

今日的话题について、TVニュースや新聞を通してどれくらい関心を持っているかを問いました。

* C. T.

・受験生の出来は？

今年度の平均点は71.3点で、昨年の73.2点と同程度でした。放送の内容をそのまま答える問題は正答率が高く、放送の指示に従って作業する問題は正答率が低い、という結果でした。

・問題の難易度・特徴は？

指示を聞いて受験届を記入したり、修道独自の時間割を読み取るなど、修道生活で実際に起こる状況を意識して出題しました。受験生が難しいと感じたか易しいと感じたかは分かりませんが、修道生活を送る上でこれくらいのことが全くできないようでは困る、というのが出題者の思いです。

・採点上の気づき・受験生の解答の特徴は？

大問1 フリガナを書く問題ができていませんでした（正答率38.5%）。濁点と半濁点に1マス使うという記入方法は、自分で書いた経験がないと書けなかったかもしれません。

大問2 正答率が一番低い大問でした（正答率61.2%）。問6はポイントが不明瞭な解答が多くありました。聞かれたことをストレートに答えられるようにしましょう。

大問3 よくできていました。

大問4 問3と問4の正答率が低く、それぞれ37%と41.4%でした。自分がその場にとらわれず方向を向いているかを考えなければいけない問題でした。

大問5 問5は言いたいことがわからない解答が多くありました。読み手に解釈を委ねるような曖昧な解答はやめましょう。

・受験生への要望・合否のカギは？

相手の言ったことを正確に受け取り、自分の言いたいことを正確に伝える訓練をしましょう。そのためには話の要点を掴むことが必要です。メモを上手に取れるようになることでその力が鍛えられると思います。また、自分の力で問題を解決することを心がけましょう。他人に書類を記入してもらったり、スマホの地図アプリに行き先を教えてもらっても、自分の力は鍛えられません。応援しています。

・問題解説

大問1 指示に従って作業する力を確認する問題です。アンケートや各種申込などにおける簡単な個人情報の入力といった日常でもありうる場面からの出題としました。

大問2 修道のやや複雑な時間割のシステムを、説明を聞いてきちんと理解できるかを確認する問題です。教師の説明だけではなく他の生徒の質問などもしっかり聞き取れているか、また、聞き取った情報をもとにして簡単な作業が正確にできるかどうかを問いました。

大問3 膨大な情報と刻々と変化する状況に対応できるかを確認する問題です。以下の3つの力を問いました。①情報を(メモしながら)聞き取れるか。②会話を追い、それぞれの人物が言っている要点を押さえられるか。③変化する状況、更新される情報に対応できるか。

大問4 情報を聞き取り、自分がどの方向を向いて立っているか、地図上でどのような動きをするか、などについて考えることができるかを確認する問題です。紙面で与えられた地図と自分の現在の立ち位置からどのように移動すればよいかを判断しなければならない状況に対応できる力があるかを問いました。

大問5 講演の内容を的確に聞き取り、設問の意図を正しく聞き取れるかを確認する問題です。指示に従って情報を的確に処理できているかを問いました。

*C.T.の音声については[こちら](#)をご覧ください。



*理科

・受験生の出来は？

単純な知識を問うタイプの問題は、よくできていました。記述問題については、出来・不出来の差が大きく分されました。また、難度の高い計算問題でも差がついたと思われます。

・問題の難易度・特徴は？

大問1の地学分野の問題の解答に時間がかかりすぎて、大問3物理分野・大問4化学分野の解答に十分な時間が取れない受験生が多かったようです。受験生全体の平均点は昨年よりも下がり、難化したといえます。選択択問題では、数を指定せず、複数の解答をすべて選ぶ形式の問題を1つ出題しました。また、実験結果をもとにして結論を導く力を試す問題や、やや難度の高い計算問題(水溶液の濃度)を出題しました。

・採点上の気づき・受験生の解答の特徴は？

思考力を要する問題において、受験生のみなさんは苦戦したようです。また、記述問題では、自分が理解していることでも説明の仕方が不十分で、相手にうまく伝えることができていない解答(キーワードが抜けているなど)が見られました。書きたいことが多くある場合、要点を上手くまとめてコンパクトな文章にすることも必要です。

・受験生への要望・合否のカギは？

基本問題は確実に解答することが求められます。教科書に書いてある重要事項をしっかり覚え、問題演習を重ねましょう。さらに応用問題に対処するためには、日頃から身近な自然現象に興味・関心を持ち、探求しようとする気持ちをもちながら学習することが大切です。学校でも、与えられた実験を漠然とこなすのではなく、「なぜそうなるのか？」を考えながら取り組むようにしましょう。

・問題解説

大問1 地学分野

月の地球上での見え方、月の動きの周期性、北半球と南半球での月の見え方の違いについて出題しました。

小学校で習った基本事項を理解しているかどうかを試し、さらにやや発展的な問題に対する応用力を問いました。

大問2 生物分野

小学校において多学年にまたがって学ぶアサガオを題材にして、日頃培われた観察力を見るとともに、初見の実験をととして考察力を見る問題として出題しました。

大問3 物理分野

学校で習った内容に加えて、身近で起こる自然現象に疑問や興味関心を持っているかどうかをはかる問題として出題しました。

大問4 化学分野

水溶液の濃度の表し方、中和反応における指示薬の色の変化、中和反応の量的関係に関する計算問題を出題しました。知識だけでなく、計算力や、考えたことを文章で説明する能力も問いました。

*算数

・受験生の出来は？

今年度は平均点79.6点(63.7%)で、昨年度の平均点74.9点(59.9%)よりアップしました。標準偏差は昨年度と同じく25.7で得点のばらつきがやや上にずれたものの、ほぼ昨年度と同様の分布になったと考えられます。101点以上の受験生が昨年度の131名(15.6%)から109名(12.4%)とやや減ったものの、全般的に健闘していると思います。本校では、大学入試改革を意識して問題を作成してきていますが、今回は受験生に深く考えてもらう問題として、ピリヤードを題材とした出題を行いました。今後も、教科書内容の枠を守りつつも「考える」力を試す出題を続けていきたいと思ひます。

・問題の難易度・特徴は？

大問1は、(3)について問題読み取りミスから正答率が5割ほどでしたが、その他の問題の正答率は7割弱～ほぼ10割と高く、多くの受験生が基本的な力を身につけていました。

大問2は、(1)の正答率が1割を切るのは想定外でした。やり方を工夫すれば場合分けもなく簡単な計算で解けるのですが、問題慣れた受験生でも厳しいようでした。(3)②も同様で、3割程度の正答率に留まりました。その他は6割弱～9割弱とまずまずでした。

大問3は、算数入試では結構定番なのですが、正答率は(1)の8割から徐々に下がり(3)は2割弱でした。読解ミス、計算ミスが多く出たと感じました。

大問4は、クリエイティブな問題として出題しました。正答率は(1)が6.5割程度でまずまずですが、(2)は工夫しきれない受験生が多くて2割弱でした。

大問5は、定番の問題で、(1)8.5割(2)6割(3)1.5割程度と段階的に難度を上げ考察力を見る出題でした。(3)までやりきれた人は相当力があると感じます。

・採点上の気づき・受験生の解答の特徴は？

ていねいに字を書くこと、約分すべきか否かを確認すること、問題の捉え方を間違えていないかを自問自答することによって、得点が伸びるはずだった受験生のみなさんが少なからずいました。

・受験生への要望、可否のカギは？

何を求められているのかを確実につかんでください。その上で、1つ1つ工夫をこらさずすることが大切です。

日々の生活の中で、常によりよいものを目指して工夫し続けることで発想力も育まれます。工夫を凝らすことを習慣とするよう頑張ってください。

・問題解説

基礎的知識・技能を問うことに加え、数学的な考察力を見る出題としました。

シンプルな問題ながら、文章を正しく理解する力も試しています。

大問1 小問集合

(1) 計算問題(2)～(7) 規則性や場合の数、図形の計量など
易しめの基本問題で、迅速で正確な計算力・処理力を問いました。

大問2 小問集合

(1) 場合の数 (2) 図形の計量 (3) 立体図形の性質
以上を題材に、大問1よりやや難しめの問題で応用力を問いました。

大問3

立体図形・速度・グラフの活用などの融合問題で基本的な思考力を問いました。

大問4

ビリヤードの球の移動を題材に、問題文をしっかり読解し、数学的な展開力を問いました。

大問5

数の規則性の問題を題材に、試行力や論理的考察力を問いました。

IV 今後の予定

第1回登校日 …… 2月5日 日曜日

第2回登校日 …… 3月5日 日曜日@体育館メインアリーナ

入 学 式 …… 4月7日 金曜日

